東日本大震災　（連絡先）TEL（078）641-1651　FAX（078）641-1654

神戸医療生協支援ニュース

2011年4月　1日　第13号

■第4陣（宮本・三輪看護師・西川健まち）無事帰ってきました！

・昨日の午後現地を出発した第4陣が今朝10時に無事帰ってきました。箕畑医師は1日延長し残っていますので3名で帰ってきました。
・各人はみなさんとても元気でした。「帰りは3時間しか寝てない」と言いつつ、久しぶりの同僚との再会に元気に現地の様子を語っていました。
ご苦労様でした。

4月1日「神戸新聞」掲載されました。

（第3種郵便物認可）　神戸新聞

関連死の危険 長期化の恐れ

東日本大震災　神戸協同病院・上田院長に聞く

東日本大震災で避難生活が長引き、持病の悪化や体調不良から引き起こされる「震災関連死」の問題が深刻化している。16年前の阪神・淡路大震災でいち早くこの問題を指摘し、今回も被災地で救護に取り組む神戸協同病院（神戸市長田区）の上田耕蔵院長（60）は「原発や石油不足など想定外の事態が重なり、外からの支援が困難な状況が続いている。長期にわたって関連死が発生する恐れがある」と指摘する。（岩崎昌志）

―上田院長は3月19～22日、宮城県塩釜市で活動したが、現場の状況は。

「小中学校の避難所で看護師、事務職員らと診療を始めた。電気や水、ガスなどのインフラは途絶し、燃料の灯油を節約するために暖房は夜間にだけ使われていた。気温は日中でも3、4度。地震から1週間が過ぎていたが、厳しい寒さで風邪をひく人が多かった」

「被災地の状況は阪神・淡路と震災など過去の地震とは大きく異なる。特に、津波被害が非常に広範囲で石油の供給が困難になった。原発の非常事態が収まっていない―の3点が想定外だった」

―高齢者を中心に、関連死の発生が既に報道されている。

「関連死の動向は、救急車の出動件数によっておおまかに把握できる。阪神・淡路大震災では関連死が900人を超えたが、大半は発生から1週間に集中していた。今回も既に多く発生しているのではないかと懸念しているが、報道されているのは数十人。被災規模からすると恐らく少ない印象で、残念ながら隠れたケースも相当あるのではないか」

「これほど被害が大きいと、子どもの関連死にも注意が必要。被災地では小児用の薬も不足気味だった」と語る上田耕蔵院長＝神戸市長田区久保町2

インフラ途絶 石油不足影響　目立つ低体温症

「『低体温症』が目立つのも特徴だ。津波から救助された直後に亡くなる例と、避難先などで暖房が使えないことによる例の2種類がある。石油や水、食料といった物流の途絶は深刻。交通網の寸断と石油不足で孤立した家や避難所もあり、救助や医療を受ける以前に関連死したとみられるケースもある。支援の遅れから、関連死の危険も過去に例がないほど長期化し、1カ月以上続く可能性がある」

―関連死をなくすために必要な仕組みは。

「重症になる恐れのある人を見つけ、速やかに被災して いない医療機関につなげるのが理想だ。また、要介護認定を受けている高齢者が衰弱している場合は福祉施設に緊急入所させること。被災した地域で在宅介護を続けるのは家族の負担が大きすぎる。日頃から高齢者の状態を知っているケアマネジャーや保健師らの役割が大きい」

「一方、要介護認定されていない高齢者への目配りも欠かせない。例えば避難所でカルテのように体調などを書き込んだ名簿を作り、小まめに状態を聞き取って変化に気付けるようにできれば効果的だ」

「関連死の原因として多いのは感染症だが、長時間、体を動かさずにいると（血行不良で血栓ができ）を引き起こす『エコノミークラス症候群』にも気を付けないといけない。今後、石油不足が改善されると、車中で暖を取る人が増えるかもしれない。2004年の新潟県中越地震の被災地では車中泊によって発症、死亡した事例もあり、注意が必要だ」

―兵庫県内で被災者の受け入れ態勢が整備され、実際に避難する人が増えている。

「安全地帯である避難先も被災者にとっては不慣れな環境であり、体調への気配りは不可欠。受け入れ側として、まずは持病を持つ人の名簿を作り、医療や介護と結び付けることが大切だ」

からだ

・西川くんは、現地で避難所へ送る部隊の編成等を扱う事務局に支援に入りました。
非常に激務で朝7時から夜中の2時まで業務についていたそうです。
・物資についても、要望は日々変わり、この度はシャンプーや保湿クリームなどの要望が強く、そうした物資は中々無かったそうです。
・機会を作って必ず再度支援に行く事も現地の職員と話し合ったそうです。

■対策本部事務局から

・本日関西テレビ「アンカー」で午後4時25分頃に、上田院長のインタビューが放映される予定です。

■橋　看護部長からのリポート：本日全日本前からバスに乗車です。医師は二名 東京の女医さんは高校三年の息子と同行です。サービスエリアは満杯広島の消防士たくさんいました。原発でしょうか。長町経由ではなく 直接坂病院のようです。